

★そもそも転調なんてもんはジャズとかクラシックとかの連中がやることで、Sec.D みたいな話しは忘れてOK。  
大事なのはただ「音楽をゾーンの中に送り込む」ってこと。

## ペンタトニックの転回

4thと5thの交換で□m7(b13)

メジャーペンタトニックを転回してくとマイナーモードが、マイナーペンタトニックを転回してくとメジャーモードがそれぞれ登場してくるっぽいイメージが大事。

上段の Major Pentatonic を key=C から短3度下 key=A に移調すると [A $\Delta$ , G $\Delta$ , F $\Delta$ , D $\Delta$ , C $\Delta$ ] といった、よく見る5つのコードに置き換えられる。これに Am も加えて十字軸にに沿って、代理コードのファンクションを嵌めてけばOK。  
重要な見方は、□69 ってコードはメジャーペンタトニック、□m7(11) ってコードはマイナーペンタトニックだってこと。  
だからって、

その5音を伴奏で全部鳴らしっぱなしじゃゲーが無い。

・伴奏で抜いた音を、メロディーで埋めるってのが大吉。

そのとき、伴奏にもメロディーにも 4th interval が入ってれば、さらに大吉。

□7(sus2,4)は Re を中心音としたペンタトニック。核音は Re-So(中心音はオクターブ内にひとつだけ、核音は複数存在しうる)。

IV on V ってコードも Re\_penta.

## ペンタトニックコードの実践 [Mode+Bass]

コードチェンジじゃなくてモードチェンジだ(トニックは固定=絶対に転調では無い)と考える。

ポイント① 3度を抜く

そーすつと自然と Sus2 や Sus4 が登場する。ってなわけで、自然と4度が登場する。

・3度はあっても無くてもOK

ポイント② ペンタトニックに1音足す

慎重に選べば、様々なチャーチスケールが登場するので、□mode./Bass と表記できる。

・低域は単音でもパワーコードでもOK

ポイント③ モード毎の色彩を繋げてく

Major から見た変化(特性音)と Minor から見た変化(特性音)を使いこなす

・Mode の基本はペンタトニック

・そこに倍音豊かな Bass の動きを追加する

・さらにペンタトニック以外の1音を Melody に使っちゃう

以上。べんりだけど3度堆積よりかダンチに、積み方 (Voicing = 音域) による色彩変化が激しいぞ。

極力簡単で有効な音だけ鳴らせ、自分の耳を信じろ。